

1. 概要

2007年の大統領選挙に向けて中道右派勢力は、国民に人気のあるシオリ副大統領及びラバーニャ前経済相を同勢力に引き込もうとする動きを見せている。同年の大統領選挙に関しては、今のところ、キルチネル大統領再選の可能性が高いと見られている。

外交面では、キルチネル大統領の訪伯、シャノン米国務省西半球担当次官補及びモラレス・ボリビア次期大統領の訪亜等が行われた。また、キルチネル大統領は、モラレス・ボリビア大統領の就任式に出席した他、チリ大統領選挙の決選投票で当選したバチェレ候補に祝意を表した。一方で、亜とウルグアイの間では、ウルグアイにおける製紙工場建設問題を巡って、ギクシャクした関係が続いている。

2. 内政

(1) 2007年の大統領選挙

昨年10月の議会選挙以降、キルチネル大統領が自らの再選をより確実なものにするため、2007年の大統領選挙が同年10月ではなく、現在の良好な経済状況が確実に継続すると見られている時期である同年3月又は4月に前倒して実施されるのではないかとの憶測が流れていた経緯があるが、この点について、7日、アニバル・フェルナンデス内相は、「大統領選挙は、2007年10月第4日曜日であり、キルチネル大統領の任期は、同年12月10日に満了する」と述べた。

(2) 野党の動向

(イ) 11日、ソビッチ・ネウケン州知事は、ラバーニャ前経済相を中道右派勢力に加えたい意向を示した。

(ロ) 20日、ソビッチ知事は、シオリ副大統領と会談し、「キルチネル大統領は、国民がシオリ副大統領にも票を投じたということを肝に銘じるべきである」（注：亜の大統領選挙は、投票用紙に大統領候補と副大統領候補が併記される）と述べ、シオリ副大統領との良好な関係を示した。

(ハ) ソビッチ知事、マクリ下院議員（変革党党首）及びロペス・ムルフィー国家再建党党首等の中道右派勢力は、2007年の大統領選挙に向けて、キルチネル大統領の対抗勢力として注目されてきている。

(3) キルチネル大統領の健康状態

(イ) 16日、キルチネル大統領は、同大統領の健康状態が良くないのではないかとの憶

測に対して、「自分は元気である。自分が死んだり、病気になることを望む者がいるが、神の御加護により、良好な健康状態を享受している」等と述べ、自らの健康状態に問題がないことを強調した。

(ロ) 同大統領の健康状態については、2004年4月に急性十二指腸炎で緊急入院して以来、度々懸念されてきたが、キルチネル大統領が、年末年始に予定を延長して10日間地元サンタクルス州で休養していたことから、再びキルチネル大統領の健康状態が良好ではないのではないかとの憶測が流れていた経緯がある。

(4) イバラ・ブエノスアイレス市長（職務停止中）の弾劾審議

17日、ブエノスアイレス市議会弾劾委員会は、2004年12月に起こったディスコ火災の責任追及を受けて、職務停止中のイバラ市長に対する弾劾審議を開始した。今後、同委員会がイバラ市長を更迭するか否かを決定する。

3. 外交

(1) ブラジル及びベネズエラ

(イ) タイアナ外相の訪伯

11日、タイアナ外相は、ブラジルにおいて、ルーラ伯大統領及びアモリン伯外相と会談し、17-19日のキルチネル大統領の訪伯準備、二国間問題、地域問題等について話し合った。

(ロ) キルチネル大統領の訪伯

(i) 17-19日、キルチネル大統領は国賓として訪伯し、18日、ルーラ伯大統領と会談した。なお、キルチネル大統領の国賓としての訪伯は初めて。

(ii) キルチネル大統領は、メルコスール及び南米統合強化の姿勢を表明した。また、両大統領は、メルコスール域内の小国に配慮することを確認した他、ボリビアに対して、メルコスール正式加盟を促した。

亜伯貿易問題については、伯側が亜のセーフガード適用を受け入れる可能性について話し合われた。

(iii) 同日、キルチネル大統領は、伯議会で演説を行い、「世界における南米のシンデレラ（不当に軽視される存在）という考え方は無くなった。我々は、もはや裏庭になるのではなく、新時代を創る積極的な主体になることを望んでいる」等と述べた。

(iv) その他、同訪伯に同行したミセリ経済相、デビード公共事業相及びゴンサレス・ガルシア厚生・環境相もそれぞれ伯の閣僚と会談を行なった。

両国は、亜領域内にエイズ等対策用の薬品工場を建設することに合意した。

(ハ) 亜・伯・ベネズエラ首脳会談

(i) 19日、キルチネル大統領は、ルーラ伯大統領及びチャベス・ベネズエラ大統領と三者会談を行なった。

(ii) エネルギー問題

- ・三首脳は、南米ガスパイプライン建設計画を進展させることに合意した。
- ・3月10日、三首脳は、亜メンドサ州で再び会談し、チリ国境に接する同州から、翌11日、パチェレ・チリ次期大統領の就任式に出席するため、チリを訪問する予定。10日の会談では、三国が、南米ガスパイプライン建設計画のプレゼンテーションを行い、7月のベネズエラにおける首脳会談で、全世界に向けて同計画を発表する予定。
- ・亜及びベネズエラは、サンホルヘ湾（亜）の海底油田探索調査及びオリノコ油田（ベネズエラ）の石油埋蔵量調査に関する趣意書に署名した。

(iii) 軍事協力

三国は、軍事産業の統合手続を開始する模様。アモリン伯外相は、記者団に「軍事統合について話し合ったのか」と質問され、「その言葉は、おそらく強い意味があるが、我々が話し合ったのは、軍事産業の統合についてである。この統合に向けて各国の管轄省庁に専門家グループを作ることを決定した」と述べた。

(iv) 対ボリビア支援

三首脳は、ボリビアに対する支援を行うことで合意すると共に、ボリビアに対してメルコスール正式加盟を促した。

(2) ボリビア

(イ) モラレス・ボリビア次期大統領の訪亜

(i) 17日、モラレス・ボリビア次期大統領は、亜政府により提供された亜大統領専用機「タンゴ10」により訪亜し、キルチネル大統領と約90分間に亘り会談した。

(ii) 会談後、モラレス次期大統領は、タイアナ外相と共に記者会見を行い、「自分は、亜に交渉をするために来たのではなく、話を聞くために来た」、「キルチネル大統領に対して、社会紛争をコントロールする秘訣を尋ねたら、国民と共にあるべしと答えてくれた」、「エネルギー問題に関しては、政権が発足してから議論しよう」、「亜に在住するボリビア人が制憲議会のための選挙権を持つことができるよう、協力の方法についてキルチネル大統領と話し合った」等と述べた。

(iii) 同日、会談が行なわれた大統領府の前に位置する五月広場には、亜在住ボリビア人約2,000人及び亜の一部ピケテロ・グループ（失業者団体）が、モラレス次期大統領に歓迎の意を表明するために集まった。

(ロ) キルチネル大統領のボリビア訪問

(i) 22日、キルチネル大統領は、モラレス・ボリビア大統領就任式に出席するため、ボリビアを訪問した。

(ii) モラレス大統領は、約2時間に亘る就任演説において、キルチネル大統領に対して、就任式出席及び訪亜時に助言を受けたことに謝意を述べた。

また、モラレス大統領は、「キルチネル大統領が、自分をキアカ市（亜）とビジャソン市

(ボリビア) を繋ぐ橋の開通式に招待した」と述べた。同開通式は2月の予定であり、この機会に両国は、教育、衛生、技術協力等に関する二国間協定に署名する模様。

(iii) 当初、22日にキルチネル大統領とモラレス大統領の首脳会談が行われると見られていたが、就任式直後、キルチネル大統領は帰国の途についたため、同会談は実現しなかった。

(3) チリ

(イ) 15日、キルチネル大統領及びクリスティーナ大統領夫人(上院議員)は、チリ大統領選挙の決選投票で当選したバチェレ候補に電話し、同候補の勝利に祝意を表した。

(ロ) また、同日、亜政府は、トマダ労働相を筆頭とする代表団をチリに派遣した。トマダ労働相は、バチェレ次期大統領と会談し、キルチネル大統領の祝福の意を同次期大統領に伝えた他、「バチェレ次期大統領は、キルチネル大統領の支持に感謝し、早期に訪亜すると語った」と述べた。

(ハ) 亜では、与野党共にバチェレ候補の勝利を概ね好意的に受け止めている。

(4) ウルグアイ

(イ) ウルグアイのフレイベントス市(ウルグアイ川を挟んで、亜エントレリオス州グラレグアイチュ市の向かいに位置する)における ENCE 社(西資本)及び Botnia 社(フィンランド資本)による製紙工場建設計画に関して、亜側は、同建設が環境汚染に繋がるとして強く反発してきた。

(ロ) 昨年7月、両国は、同建設が環境に与える影響を調査するためのハイレベル・ワーキンググループ(GTAN)の立ち上げを決定し、180日以内に最初の報告書を発表することに合意したが、同州の住民、環境団体等の建設反対派は、両国国境にある一部の橋を封鎖する抗議行動を度々行ってきた。

(ハ) 19日、キルチネル大統領は、「バスケス・ウルグアイ大統領との関係は、非常に正しいもの」、「(製紙工場建設問題は)あくまで環境問題」等と述べて、ウルグアイとの関係改善に向けたシグナルを送った。

(ニ) 25日、ブスティ同州知事は、キルチネル大統領との会談後、記者会見を開き、亜政府が、同問題に関して、ハーグの国際司法裁判所に訴える予定である旨述べた。

(ホ) 30日、同日までにGTANが同問題に関する報告書を出す予定であったが、結局、両国が納得する形に至らず、亜側及びウルグアイ側のそれぞれの主張をとりまとめた2つの報告書が各外務省に対して提出される予定。

(5) 米国

(イ) 12日、シャノン米 국무省西半球担当次官補が訪亜し、キルチネル大統領及び4閣僚(タイアナ外相、デビッド公共事業相、ミセリ経済相及びガレ国防相)とそれぞれ会談

した。

(ロ) キルチネル大統領との会談は、当初予定されていなかったが、タイアナ外相は、キルチネル大統領が同次官補との対話に関心を示したために同会談が実現したと説明した。

(ハ) その後、同次官補は、記者会見を開き、「米亜関係は、素晴らしいものである」、「我々にとって、米州サミットは成功であった。自由貿易に関する議論は、西半球にとって、必要かつ非常に重要なことである」、「亜と米国には、民主主義及び経済開発に対する強いコミットメントがある」、「キルチネル大統領には、非常に親切に会談して頂いた」等と述べると共に、亜の対IMF債務完済及び亜経済回復を賞賛した。

(6) モロッコ

(イ) 25-26日、ベナイッサ・モロッコ外相が訪亜し、シオリ副大統領、タイアナ外相、バレストリーニ下院議長及びテレルマン・ブエノスアイレス暫定市長と会談した。

(ロ) 外相会談において、両外相は、これまでの二国間関係を賞賛し、あらゆる分野で交流を促進するために努力する意思を確認した他、二国間対話の質に満足している旨表明した。また、両外相は、4月にブエノスアイレス市において、第6回亜・モロッコ合同委員会を開催することに合意し、ベナイッサ外相は、同委員会の共同議長を務めるための亜訪問招待を承諾した。

(ハ) 両国は、今年上半期にキルチネル大統領がモロッコを訪問する可能性について模索している模様。

(7) 韓国

13日、King Chong 韓国外交通商部副長官が訪亜して、ガルシア・モリタン外務筆頭副大臣（外交政策担当）と会談し、潘基文・韓国外交通商部長官の訪亜準備等に関して話し合った。

(8) 要人往来

(イ) 来訪

1月10-11日	米国共和党上院議員団（団長：Mc Connell 上院議員）
1月12日	シャノン米国務省西半球担当次官補
1月13日	King Chong 韓国外交通商部副長官
1月16日	インスルサOAS事務総長及びバルデス国連ハイチ問題特別代表
1月17日	モラレス・ボリビア次期大統領
1月25-26日	ベナイッサ・モロッコ外相
1月26日	エステベス・チリ公共事業・運輸相 Roger Pardo-Maurer 米国防省西半球担当次官補

(ロ) 往訪

1月11日	タイアナ外相の訪伯（ルーラ伯大統領及びアモリン伯外相と会談）
1月15日	トマダ労働相のチリ訪問（バチェレ・チリ次期大統領と会談）
1月17－19日	キルチネル大統領の訪伯（ルーラ伯大統領及びチャベス・ベネズエラ大統領と会談）
1月22日	キルチネル大統領のボリビア訪問（モラレス大統領就任式出席）
1月26－27日	タイアナ外相のホンジュラス訪問（ロサレス大統領就任式出席）